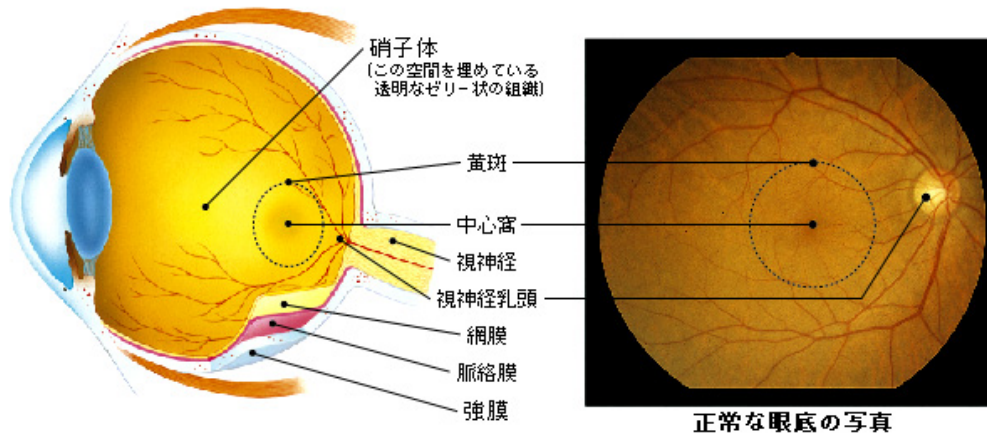


加齢黄斑変性症

■ 加齢黄斑変性症とは

加齢黄斑変性は、網膜（カメラのフィルムにあたる組織）の黄斑〈おうはん〉というところに、異常な老化現象が起こり、視機能（視力や視野）が低下してくる病気です。黄斑は網膜のほぼ中央にあり、ほかの部分の網膜に比べて視機能が格段によく、物を見る要の部分です。新聞を読むとき、読み取る文字は常に視野の中央の黄斑で読まれていて、そこから数文字でも外れたところにある文字は、相当読みづらいものです。

黄斑の中央、直径約 0.2 ～0.35mm にあたる中心窩〈ちゅうしんか〉は、とくに視機能が鋭敏な一点です。視力検査でいう「視力」とは、中心窩の視力のことです。眼底の病気の治療は、この中心窩の機能をどれだけ回復・維持できるかが大きなポイントです。



■ 加齢黄斑変性の症状

加齢黄斑変性（かれいおうはんへんせい）になると、見たいところが見えない、読みたい文字が読めないなど、日常生活に支障をきたします。また、その症状は進行していきます。

◆ 加齢黄斑変性の見え方例

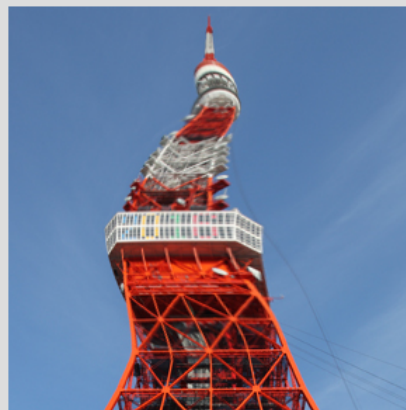
症状は中央部以外は見えている状態で、全く光を失ってしまうことはありません。症状が片方の眼から現れることが多いため気づきにくく、また気づいても年齢のせいにしてそのままにしていることも少なくありません。

ゆがんで見える

東京タワー



正常な状態



中心がゆがんでみえる状態

中心が暗く見える

料理をする手元



正常な状態



中心が暗く見える状態

ぼやけて見える

新聞紙



正常な状態



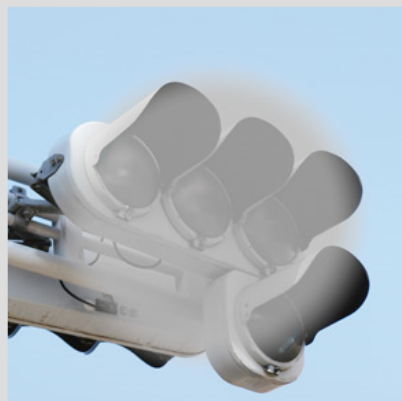
中心がぼやけて見える状態

不鮮明になる

信号機



正常な状態



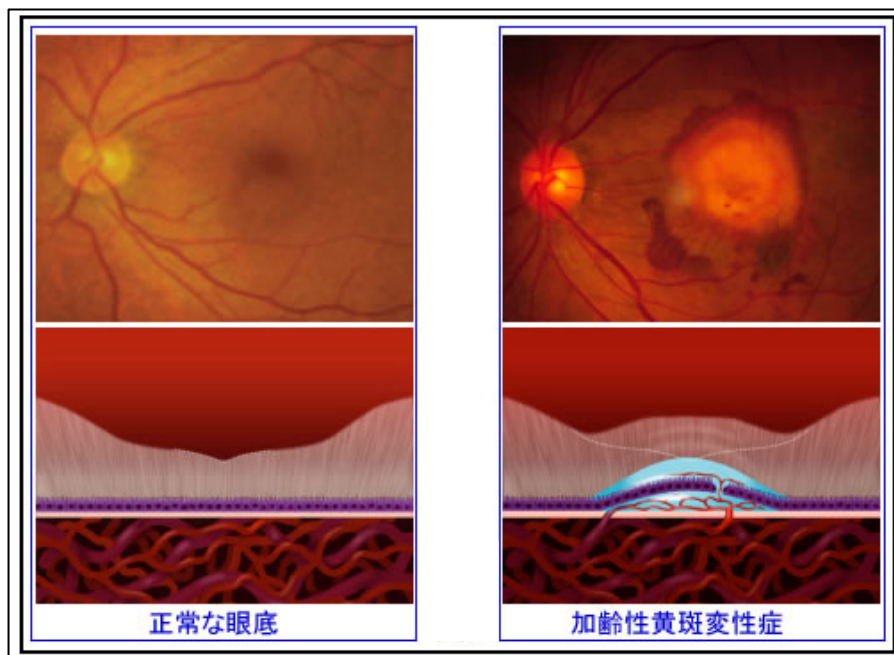
中心が不鮮明に見える状態

■加齢黄斑変性症の種類

加齢黄斑変性症には大きく分けて2つのタイプがあります。

(1)萎縮型(非滲出型)・・・黄斑の加齢変化が病的に進んだ状態です。病状の進行は緩やかで、高度の視力障害はおこらないため、この時期には積極的な治療は行いません。しかし進行すると、次に示すような滲出型になり、高度な視力障害を引き起こします。したがって定期検診は大切です。

(2)滲出型・・・黄斑の病的な加齢変化が高度に進行した状態です。脈絡膜から病的な新しい血管が発生し、網膜の方に伸びていきます。この新しい血管を**新生血管**といいます。新生血管の血管壁は非常にもろいため、血液成分がどんどん漏れて、黄斑の網膜の視細胞が破壊され、視力障害を引き起こします。したがって新生血管が発生しているかどうかを知ることが重要です。



■加齢黄斑変性の治療

1) 萎縮型の加齢黄斑変性

残念ながら萎縮型の加齢黄斑変性には現在のところ治療方法はありません。

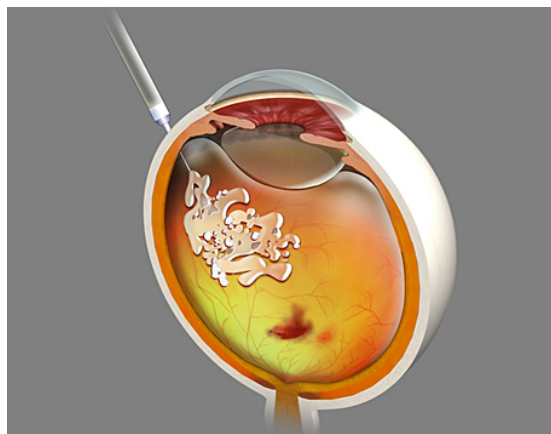
2) 滲出型の加齢黄斑変性

(1) 薬物治療

滲出型の加齢黄斑変性にはいくつかの治療法があります。治療の目的は脈絡膜新生血管の拡大を抑え退縮させ、視力を維持あるいは改善することです。視力が良くなることもあります、視力が正常になることはほとんどありません。

硝子体内注射による薬物治療

脈絡膜新生血管の発生には血管内皮増殖因子(vascular endothelial growth factor: VEGF)が関係していると考えられており、VEGFを阻害することにより脈絡膜新生血管を退縮させる治療法です。



(2) 光線力学的療法 (photodynamic therapy: PDT)

ビスサイン®という光感受性物質を点滴し、その後に非常に弱い出力の専用のレーザーを病変に照射する治療法です。治療を行う前に造影検査を行い、脈絡膜新生血管をはじめとする病変を確認して、病変の大きさに合わせてレーザーの照射範囲を決定します。治療後 48 時間は強い光に当たらないことに注意する必要があります。治療後 48 時間以内に強い光に当たると光過敏症などの合併症が起こることがあるので注意が必要です。

(3) レーザー凝固

脈絡膜新生血管が黄斑の中心から離れた場所にある場合には強い出力のレーザー光線で病変を凝固し、破壊することがあります。病変が黄斑の中心に及んでいる場合にレーザー凝固すると黄斑も障害されることになり、著しい視力低下になりますので、レーザー凝固を行うことはほとんどありません。

■ 加齢黄斑変性の予防

(1) 禁煙

喫煙している人はしていない人に比べて加齢黄斑変性になる危険性が高いことが分かっています。喫煙している人には禁煙が勧められます。

(2) サプリメント

ビタミン C、ビタミン E、 β カロチン、亜鉛などを含んだサプリメントを飲むと加齢黄斑変性の発症が少なくなることが分かっています。加齢黄斑変性の発症が少なくなりますが、完全に抑えることはできません。加齢黄斑変性になっていない人にも勧められますが、一方の目に加齢黄斑変性が発症した人にはサプリメントの内服が強く勧められます。

(3) 食事

緑黄色野菜はサプリメントと同様に加齢黄斑変性の発症を抑えると考えられています。肉中心の食事より、魚中心の食事のほうがよいようです。